

今号の作業

タンクモール左と メインスイッチを取り付ける



今号ではメインフレーム左に「タンクモール左」と、車体に内蔵する電子基板のスイッチとなる「メインスイッチ」を取り付ける。イグニッションキーは「エッチングパーツ」という薄い金属製で、抜群のリアルさを誇る。ただし非常に小さいので、紛失にはくれぐれも注意しよう。

今号のパーツ



- ①タンクモール左×1
- ②メインスイッチ×1
- ③イグニッションキー×1
- ④樹脂ワッシャー×2
- ⑤ビス(Gタイプ)×3
(※1本は予備)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ホビー用やすり(目の細かい棒状のもの)

用意するもの

- ・瞬間接着剤(低白化タイプ)
- ・セロハンテープ
- ・マスキングテープ
- ・メインフレーム左
(50号で組み立てたもの)



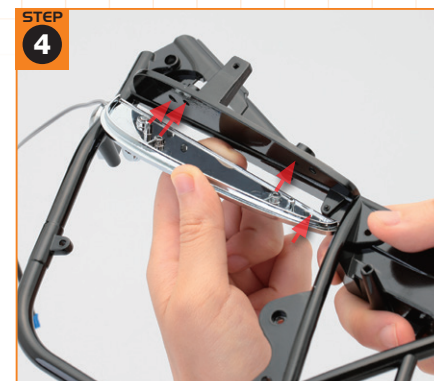
①タンクモール左と②メインスイッチを用意し、タンクモール左の底面に設けられた取り付け穴に、メインスイッチ上部のピンを、形状を合わせてセットする。



メインスイッチを真っ直ぐに押し込み、タンクモール左の底面に取り付ける。このとき、メインスイッチから出ているコネクターケーブルを引っ張ったり、ケーブルの付け根部分を曲げたりしないように注意すること。



タンクモール左裏面の、写真に示した取り付け穴の上部に、低白化タイプの瞬間接着剤を少量流し込んで、メインスイッチを確実に固定する。



48号の組み立てガイドを参照し、タンクモール左を取り付けるフレームの穴に残ったバリを削り取っておく。次に④でメインスイッチを取り付けたタンクモール左を、写真のように50号で組み立てたメインフレーム左の下側からセットする。



タンクモール左を真っ直ぐに押し込み、メインフレーム左に取り付ける。



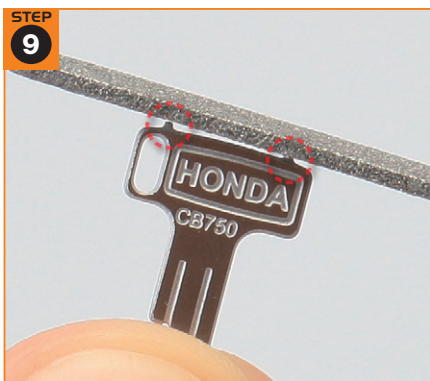
④樹脂ワッシャーの中央の穴に⑥ビス(Gタイプ)をセットし、1番の+(プラス)ドライバーを使って奥までねじ込む。これを2セット用意する。



写真に示したメインフレーム左のビス穴に、⑥で用意した樹脂ワッシャー付きビスをセットする。1番の+(プラス)ドライバーの先端に取り付けておくとセットしやすい。



ドライバーを右回りに回し、樹脂ワッシャー付きビスをねじ込む。続いてリヤ側のビス穴にも同じ手順でワッシャー付きビスをねじ込む。あまり強くねじ込むと、樹脂ワッシャーやビス穴を傷めてしまうので注意しよう。



③イグニッションキーを用意する。キーの上部に「バリ」が残っていた場合はホビー用やすりで削り取っておく。イグニッションキーは非常に小さく、薄いパーツなので、作業中に折れ曲がらないように注意しよう。

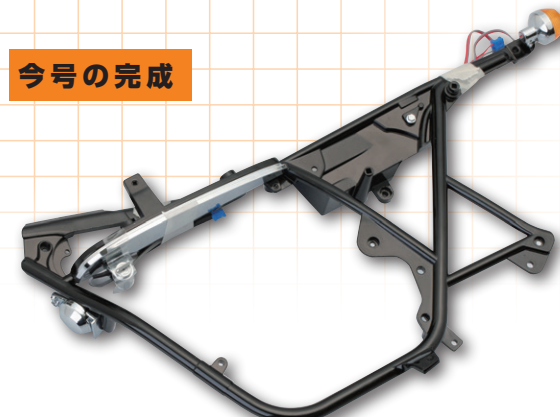


イグニッションキーをメインスイッチに差し込む。その場合、キーの「穴が開いている側」をフロントに向け(上の写真参照)、メインスイッチに対して真っすぐに差し込むようにする。差し込む向きを間違えるとスイッチが接触不良を起こす場合があるので注意しよう。



イグニッションキーを紛失しないよう、セロハンテープを使ってメインスイッチに仮留めしておく。ここで透明なセロハンテープを使うのは、「キーの有無を視認できるようにするため」だ。また、メインスイッチのケーブルは、マスキングテープでメインフレームに仮留めする。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。注意点はメインスイッチの固定と、イグニッションキーの管理。メインスイッチが確実に接着されていないと、イグニッションキーを差し込んだときにスイッチ自体が動いてしまい、接触不良を起こす危険がある。また、車体の電子基板はイグニッションキーを差し込まないと通電しない設計なので、キーを紛失すると、電飾ギミックを作動させることができなくなる。くれぐれも紛失しないように注意しよう。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。